

会員の皆様へのお知らせとご協力の御願い
-JSMO2019 学術集会は国際学会へと生まれ変わります-

公益社団法人日本臨床腫瘍学会
理事長 南 博信
学術企画委員長 中川 和彦

日本臨床腫瘍学会（以下、JSMO）会員の皆様方におかれましては、日本のがん診療ならびに学会の発展の為に尽力を賜り心より御礼申し上げます。

さて、JSMO では時代の変化と会員のニーズにマッチした学術集会のあり方について学術企画委員会を中心に長年検討を続けてまいりました。その結果、JSMO の学術集会が目指すべき方向性として下記の3つに集約いたしました。

- ◇ アジアのがん薬物療法の日常臨床を変える学術集会を目指す（一般演題の質の向上と数の増加）
- ◇ そのためには、国内のみならず、海外、とくにアジアから多くの一般演題を集める（英語化の推進による国際化）
- ◇ 一般演題重視の学術集会へ変身する（一般口演による多くの最新臨床研究結果の発表）

そして、上記を実現するために来年の第17回学術集会（JSMO2019）から、JSMO の学術集会は新しい形に生まれ変わります。

具体的に何が変わるのか、どんな新たな試みが企画されるのかを下記にご説明させて頂き、皆様のご協力を頂きたく存じます。

1) プレナリーセッションを廃止して3つのプレジデンシャルセッションを実施します。

⇒今年までその年の最も重要な演題を3つほど選んでプレナリーセッションで発表して頂いてきました。同時進行のプログラムは企画せず、全会員に聞いて頂くとの趣旨でしたが、プレナリーセッションに値する質の演題が少なかったことと他のプログラムを平行させないことへの批判を多く頂きました。そこで JSMO2019 から、その年の重要演題を毎日開催する3つのプレジデンシャルセッションに分けて、他のプログラムと並行する形で発表していただくことにしました。免疫関連、分子標的治療など臓器横断的なセッションや特に進歩著しい臓器の演題を集めメイン会場で発表して頂く予定です。また、有名な国内外のディスカッサントによるレビューを入れます。

その他、臓器別またはテーマ別口演セッションをオーラルセッションとミニオーラルセッションに分け、応募頂いた一般演題の中から優秀演題を選択し発表して頂きます。テーマによっては、メイン会場、第2会場など大きな会場で発表して頂きます。

2) プレジデンシャルセッション、臓器別、テーマ別の科学性の高いオーラルセッション、ミニオーラルセッションでの発表は英語に変わります。

⇒臓器別演題のうち口演セッションに選択された演題は英語で発表していただくこととなります。抄録や発表スライドも英語です。もちろん、チーム医療など多職種が集まる口演セッションや日本独自の社会的なテーマを扱うセッションでは口演であっても日本語での発表や質疑応答が行なわれます。抄録やスライドはできるだけ英語で作成するよう御願ひしたいですが、日本語も許容されます。

3) JSMO 会員、製薬企業、海外研究者からの一般演題をこれまで以上に積極的に誘致します。

⇒12月19日からJSMO2019の演題募集が始まります。臓器別カテゴリーの口演希望演題は英語での抄録提出となります。また、それ以外のカテゴリーの演題でもできるだけ英語での抄録登録をお願いします。会員の皆様にはご面倒をおかけすることになるかもしれませんが、英語での口頭発表を目指してこれまで以上に多くの演題登録を御願ひします。一般口演希望の演題数が減少してしまうようでは今回の学術集会改革は不可能です。会員の皆様方からの一般口演希望演題が1つでも多く寄せられることが今回の学術集会改革を成功に導く力です。

また、JSMO 学術集会が国際学会に生まれ変わる為には、一人でも多くの会員の皆様に英語で発表して頂く必要があります。

さらに、JSMO は製薬企業主導で行われている臨床開発試験（グローバルスタディ）を学会を挙げて誘致しております。サブセット解析やアンコール演題も発表の候補となります。他学会と全く同一の内容を発表する場合はアンコール演題と分かるような投稿をお願いします。会員の皆様には企業と連携して研究されておられる方も多くおられると思います。是非、連携企業とご相談頂き、JSMO2019に演題登録を御願ひします。

英語での演題発表が多くなりますと外国人研究者の参加が増えます。外国人研究者が増えると英語で発表することの必要性が高まります。そのようにして国際化を加速することで、JSMO 学術集会を多くの質の高い情報発信の場に変革したいと思ひます。

（最後に）

今回実施する学術集会改革の方向性は以前から模索されてきたもので決して新しいものではありません。しかし、この改革には大きな困難を伴うことが予想され、全面的な実施ができずにきました。今回、JSMO 理事会はこれを実行すべきと決断しました。会員の皆様のご理解とご協力を御願ひします。この改革を一緒に成功させましょう。